YAMAHA

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。



取扱説明書

SR

SR400

B9F-28199-J1●

JAU27254

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ 警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
- あなた自身と同乗者のために 1-1
- 歩行者と他の車のために 1-5
- 環境・住民の方との調和のために 1-6

各部の名称 2-1
- 左側面 2-1
- 右側面 2-2
- 運転装置と計器類 2-3

各部の取り扱いと操作 3-1
- キーの取り扱い 3-1
- イモビライザーシステム 3-2
- メインスイッチ 3-2
- 警告灯と表示灯 3-3
- スピードメーターユニット 3-4
- タコメーター 3-5
- ハンドルスイッチ 3-5
- フューエルタンクキャップ 3-7
- 燃料 3-8
- フューエルコック 3-8
- キックスターター 3-9
- デコンプレバー 3-9
- シート 3-9
- ヘルメットホルダー 3-10
- 書類入れ 3-10
- リヤクッションの調整 3-11
- サイドスタンド 3-11
- イグニッションサーキット カットオフシステム 3-12

日常点検 4-1
- 日常点検の実施 4-1
- 日常点検箇所／点検内容 4-1

運転操作 5-1
- ならし運転 5-1
- エンジン始動 5-1
- 4～5回キックしても始動しないとき 5-2
- ギヤチェンジのしかた 5-3
- ブレーキ 5-3
- 駐車 5-4

点検整備 6-1
- 点検整備の実施 6-1
- サービスツール 6-2
- カバーの取り外し、取り付け 6-2
- エンジンオイル 6-3
- エンジンのかかり具合、異音の点検 6-5
- 低速、加速の状態の点検 6-5
- エアクリーナーエレメントの交換 6-6
- タイヤ 6-7
- クラッチ 6-8
- ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検 6-9
- ブレーキランプスイッチ 6-11
- ブレーキパッドの点検 6-11
- ブレーキシューの摩耗点検 6-12
- ブレーキ液量の点検 6-12
- ドライブチェーン 6-12
- ドライブチェーンの給油 6-13
- バックミラー 6-14
- 車体各部の給油脂状態の点検 6-14
- アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム） 6-15
- バッテリー 6-15
- ヒューズ交換 6-16
- 灯火装置および方向指示灯の点検 6-18
- 運行において異常が認められた箇所の点検 6-18

お車の手入れ 7-1
- 洗車 7-1
- 保管のしかた 7-2
- アフターケア用品について 7-3

製品仕様 8-1

ユーザー情報 9-1
- 二輪車を廃棄する場合は？ 9-1
- サービスマニュアル（別売）の紹介 9-2
- 車両情報 9-2

索引 10-1

JAU27281

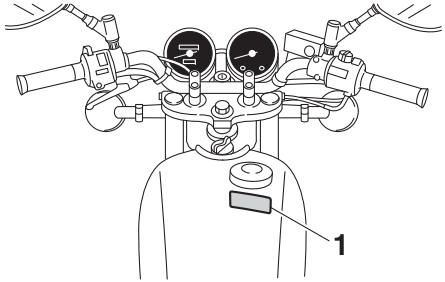
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU2737A

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警 告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。



- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
  - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン
- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
  - ズボンのすそや袖口の広い服
  - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
  - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服





- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

JWA11601

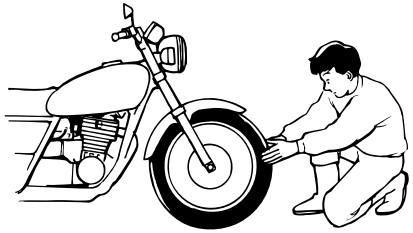
⚠ 警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定め

られた 1 年､2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



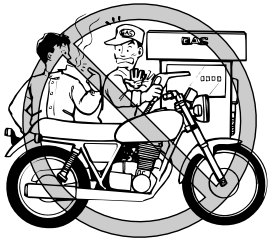
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

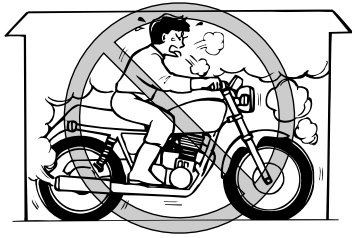
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



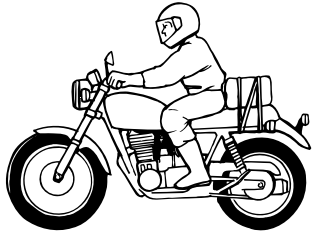
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



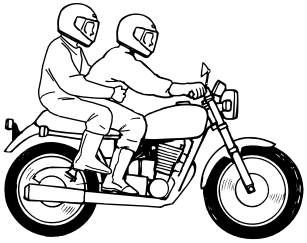
荷物はしっかり固定する



- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



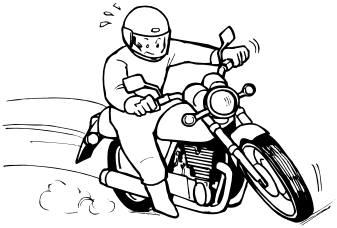
乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



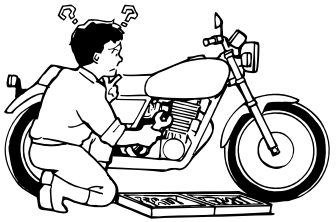
誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。



JCA15221

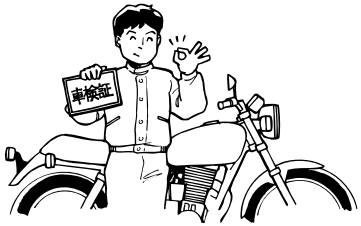
注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251cm^3 以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。

検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。

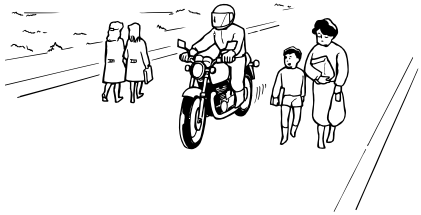


JAU27504

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



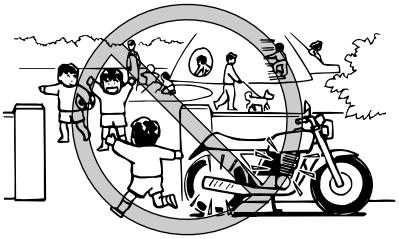
駐車

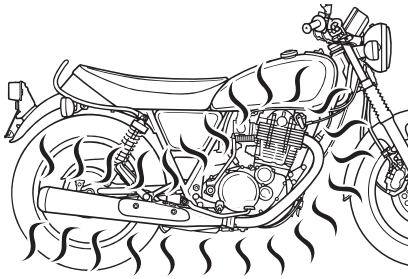
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

⚠ 警 告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**





昼間はヘッドライトを下向きに

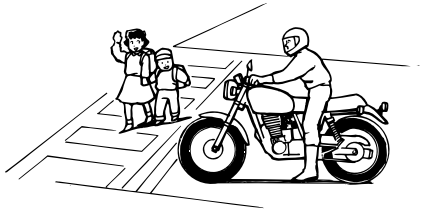
この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27582

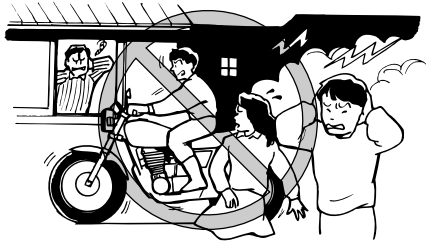
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

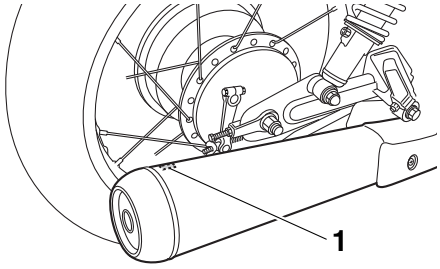


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには “YAMAHA” マークが刻印されています。



1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

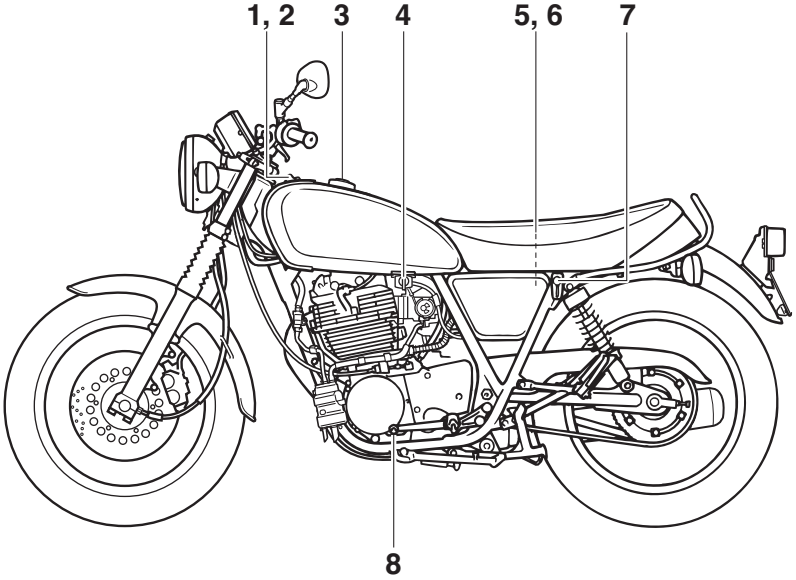
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10411

左側面

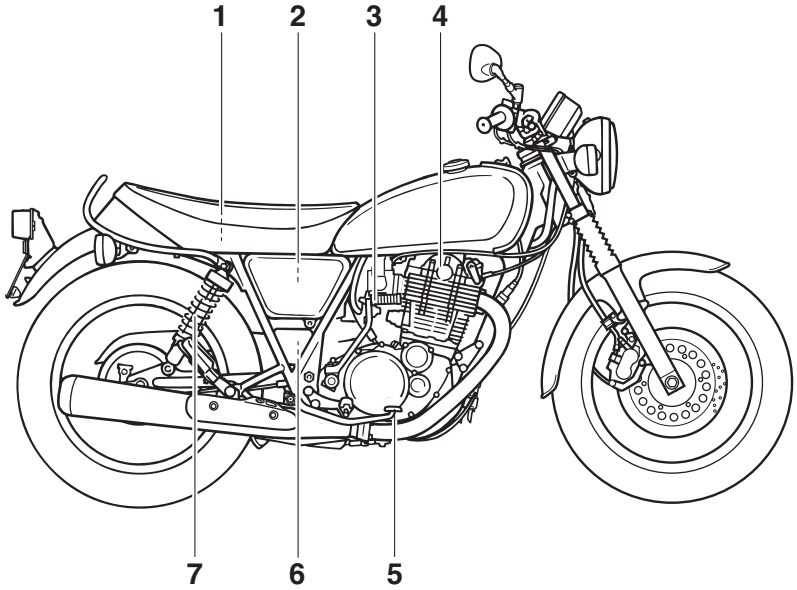
2



1. オイルレベルゲージ（P6-3）
2. オイル注入口 (P6-3)
3. フューエルタンクキャップ（P3-7）
4. フューエルコック（P3-8）
5. バッテリー（P6-15）
6. ヒューズ（P6-16）
7. ヘルメットホルダー（P3-10）
8. シフトペダル（P5-3）

JAU10421

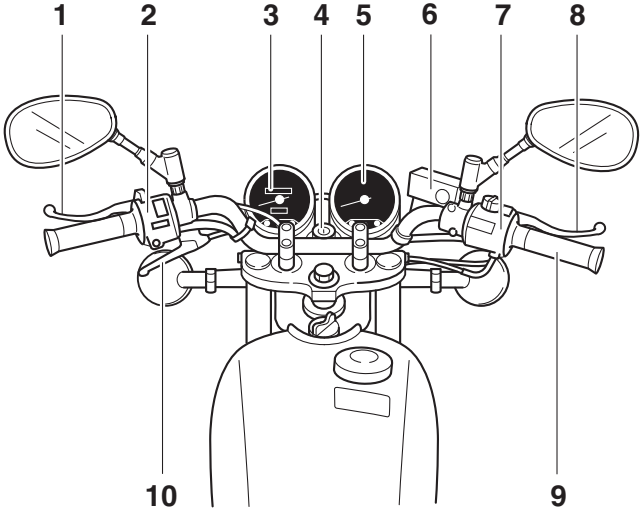
右側面



1. 書類入れ（P3-10）
2. エアクリーナーエレメント（P6-6）
3. キックスターター（P3-9）
4. キックインジケーター（P5-1）
5. ブレーキペダル（P6-9）
6. サービスツール（P6-2）
7. リヤクッション（P3-11）

JAU10431

運転装置と計器類

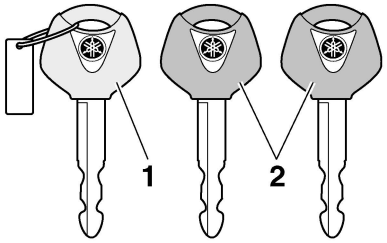


1. クラッチレバー（P6-8）
2. ハンドルスイッチ（左）（P3-5）
3. スピードメーターユニット（P3-4）
4. メインスイッチ / ハンドルロック（P3-2）
5. タコメーター（P3-5）
6. フロントブレーキマスターシリンダー（P6-12）
7. ハンドルスイッチ（右）（P3-5）
8. ブレーキレバー（P6-9）
9. スロットルグリップ
10. デコンプレバー（P3-9）

JAU33073

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが1本とマスコット部が黒いサブキーが2本あります。メインキーはサブキーの ID を登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注 意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーのIDを登録することができなくなります。また、3 本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。
- キーを水に浸けないでください。
- キーを高温になる場所に置かないでください。
- キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。
- キーに電波を発信するものを近づけないでください。
- キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。
- キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。
- キーを分解しないでください。
- 複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。
- 金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。

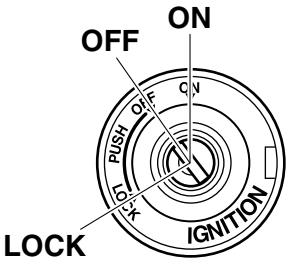
JAU26895

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録された ID のキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 3-4 ページを参照してください。）

JAU10462

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入 / 切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

⚠ 警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU34441

ON

全ての電気回路に電源が供給され、テールランプとメーター灯が点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチを OFF にするまで点灯し続けます。

JAU46011

OFF

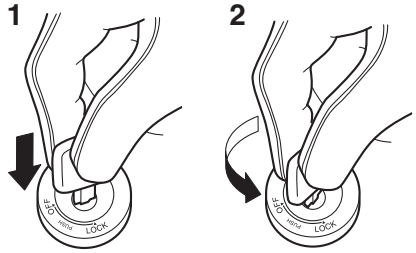
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU1068B

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



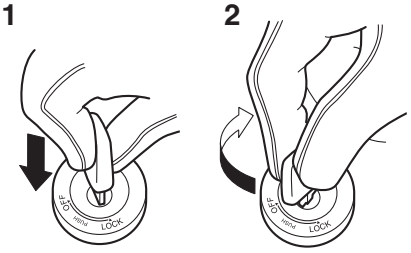
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要　点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた

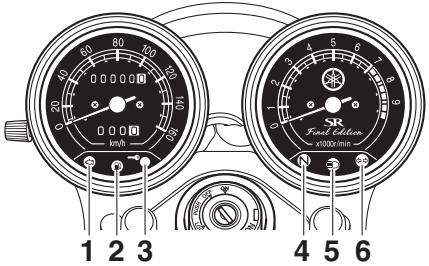


1. 押す
2. 回す

LOCK の位置でキーを押し込み、そのまま OFF まで回します。

JAU1100E

警告灯と表示灯



1. エンジン警告灯 “ ”
2. 燃料残量警告灯 “ ”
3. イモビライザーシステム表示灯 “ ”
4. ニュートラルランプ “**N**”
5. ヘッドライト上向き表示灯 “ ”
6. 方向指示器表示灯 “ ”

JAU11022

方向指示器表示灯 “ ”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11061

ニュートラルランプ “N”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU11081

ヘッドライト上向き表示灯 “ ”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU45253

燃料残量警告灯 “ ”

燃料残量が約 2.2L 以下になると点灯します。早めに給油してください。

要　点

- キーを ON にしたとき、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。
- 燃料残量警告灯の回路に断線またはショートが発生した場合、警告灯が点滅します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU73172

エンジン警告灯 “ ”

エンジンや車両制御の電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

要　点

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JAU73121

イモビライザーシステム表示灯 “ ”

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。車両の電源をオフにすると、イモビライザーシステムが機能し、約 30 秒間経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要　点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

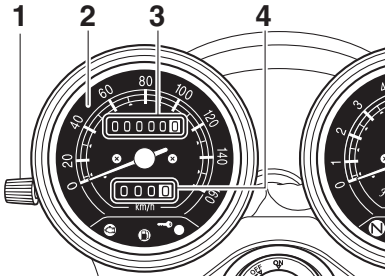
イモビライザーキーの認証エラー

イモビライザーシステム表示灯が、ゆっくり 5 回、すばやく 2 回の点滅を繰り返すときは、キーの ID の認証が妨げられた可能性があります。この場合は、次のことを試してみてください。

1. 他のイモビライザーキーがメインスイッチの近くにないことを確認します。
2. メインキーでエンジンを始動します。
3. エンジンが始動したら、エンジンを止め、サブキーで始動できるか確認します。
4. エンジンの始動ができないキーがあった場合には、車と 3 本全てのキーを持って、ヤマハ販売店でキーの再登録を受けてください。

JAU11631

スピードメーターユニット

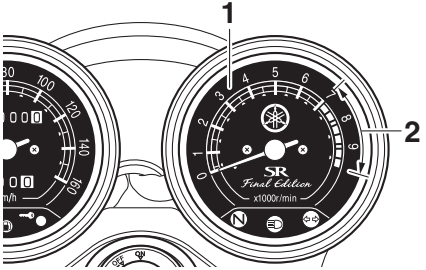


1. リセットノブ
2. スピードメーター
3. オドメーター
4. トリップメーター

スピードメーターユニットにはスピードメーター、オドメーター、トリップメーターが装備されています。スピードメーターは車の速度を示します。オドメーターは走行した総距離を示します。トリップメーターは、前回リセットノブを回してリセット（ゼロ）にした時点からの走行距離を示します。

JAU11882

タコメーター



1. タコメーター
2. レッドゾーン

毎分のエンジン回転数を示します。

JCA11861

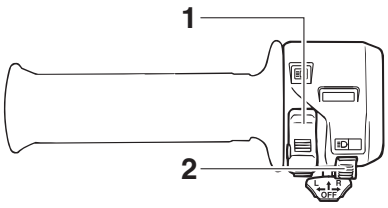
注 意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。レッドゾーン：7000 r/min 以上

JAU1234R

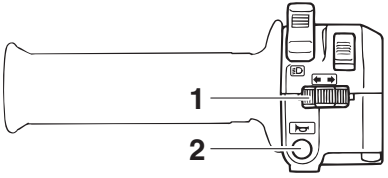
ハンドルスイッチ

＜左＞



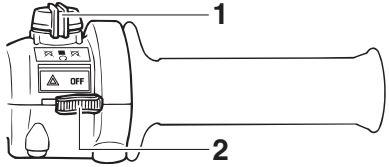
1. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≣D/≣D”
2. パッシングライトスイッチ “≣D”

＜左＞



1. 方向指示器スイッチ “⇦/⇨”
2. ホーンスイッチ “”

＜右＞



1. エンジンストップスイッチ “◯/⊠”
2. ハザードスイッチ “⚠/OFF”

JAU12352

パッシングライトスイッチ “≣D”

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要　点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが “≣D” のときは、使用できません。

JAU12402

ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≣D/≣D”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

≣D（上向き）：遠くを照らします。

≣D（下向き）：近くを照らします。

要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU12461

方向指示器スイッチ “⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

⇨: 右側の方向指示灯が点滅します。

⇦: 左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

⚠警 告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12501

ホーンスイッチ “🔊”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAU28184

エンジンストップスイッチ “⊠/◯”

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は “◯” にしておきます。

JWA12101

⚠警 告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA12353

注 意

- **非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。**
- **走行中に、エンジンストップスイッチを “◯” → “⊠” → “◯” にしないでください。エンジン不調の原因となります。また、排出ガス浄化装置の故障の原因となります。**

要　点

“⊠” にすると、エンジンは始動できません。

JAUN2211

ハザードスイッチ “⚠/OFF”

車両の電源をオンにした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点灯させます（すべての方向指示器が点滅します）。ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

ハザードランプを点灯させるには、スイッチを “⚠” 側にスライドします。ハザードランプを消灯させるには、スイッチを “OFF” 側にスライドします。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU33647

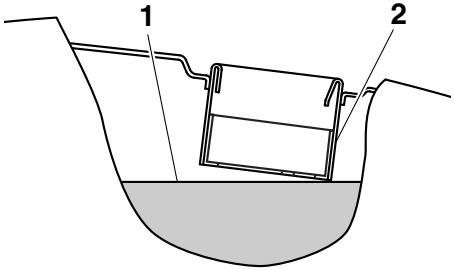
フューエルタンクキャップ

JWA12172

⚠警 告

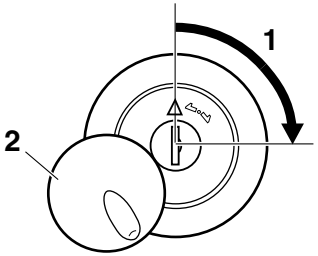
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**



1. 給油限度
2. フィラーチューブ

フューエルタンクキャップの取り外しかた

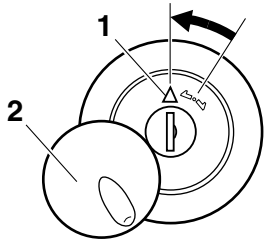


1. 解除
2. ロックカバー

1. ロックカバーをスライドさせて開けます。
2. キーを差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを取り外します。

フューエルタンクキャップの取り付けかた

1. キーを差し込んだ状態で、“△” マークを前方に向けてフューエルタンクキャップを取り付けます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。



1. “△” マーク
2. ロックカバー

要 点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを取り付けることはできません。また、

フューエルタンクキャップを正しく取り付けないと、キーを抜くことはできません。

3. ロックカバーを閉めます。

JAU31461

燃料

JAU28313

指定燃料

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 12 L

JCA12512

注 意

- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

JAU49122

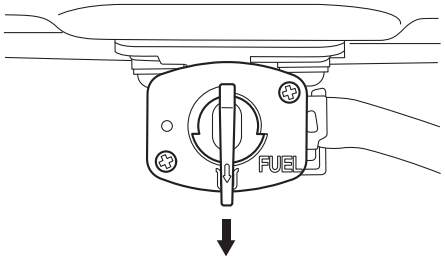
フューエルコック

この車はフューエルポンプを使用しています。

要 点

メインスイッチを ON にしたとき、またはエンジン始動中にフューエルポンプの作動音が聞こえるときがありますが異常ではありません。

(ON)



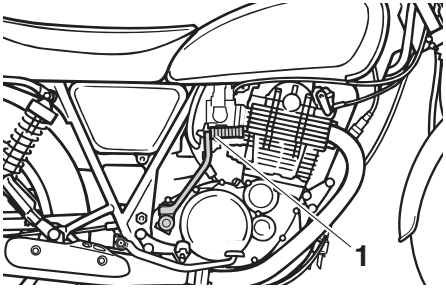
始動および走行時のレバー位置です。

●(OFF)

エンジンの点検などでフューエルパイプをフューエルタンクから外すときや、長期保管するときのレバー位置です。通常は ON のままにしておいてください。

JAU13651

キックスターター

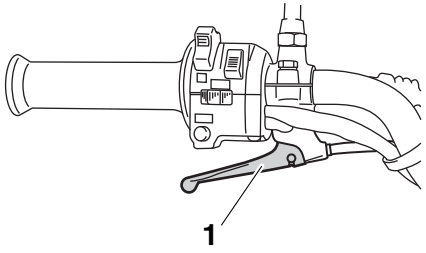


1. キックスターター

キックスターターレバーを出し、力強くキックします。この車はギヤの位置にかかわらず、クラッチレバーを握れば始動できるプライマリーキック方式を採用していますが、ギヤをニュートラルにしてからキックしてください。

JAU13701

デコンプレバー



1. デコンプレバー

デコンプレバーを握ることによってエキゾーストバルブを開放状態にし、キックインジケーターのマーク合わせを容易にします。(5-1 ページ参照)

JCA12992

注 意

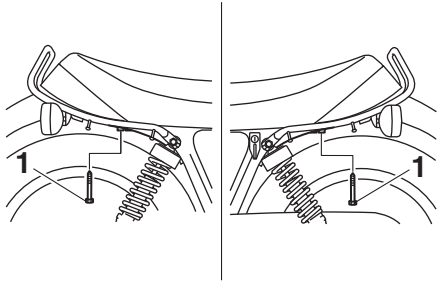
エンジンがかかっているときは、デコンプレバーを握らないでください。

JAU49131

シート

シートの取り外しかた

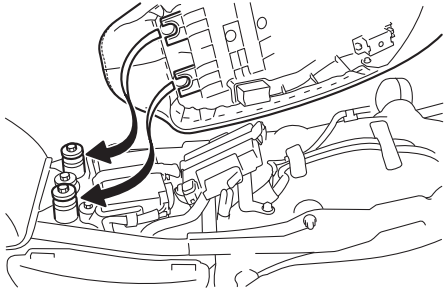
左右のボルトを外し、シートを取り外します。



1. ボルト

シートの取り付けかた

1. シート前部の突起を図のようにシートホルダーに差し込みます。
2. シートを元の位置に取り付け、左右のボルトを締め付けます。

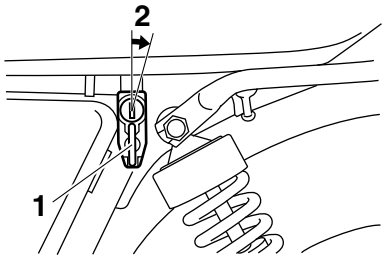


要　点

乗車する前に、シートが正しく取り付けられていることを必ず確認します。

JAU14283

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

⚠警　告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

要　点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

JAU49142

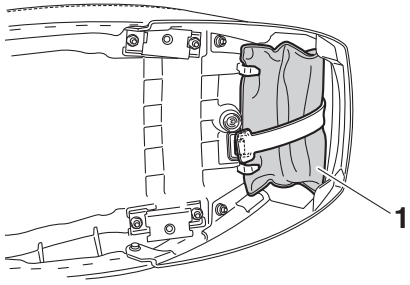
書類入れ

シートを外すとシート裏側に書類入れ（収納用ポーチ）があります。

車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、ここに保管してください。

要　点

- 収納用ポーチはファスナー側を後ろに向けて、元の位置にゴムバンドで固定してください。
- メンテナンスノート類は、折りたたんで収納用ポーチに入れてください。



1. 書類入れ

JAU14885

リヤクッションの調整

JWA10211

⚠警 告

アジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

リヤクッションにはスプリングプリロードアジャスターが装備されています。

JCA10102

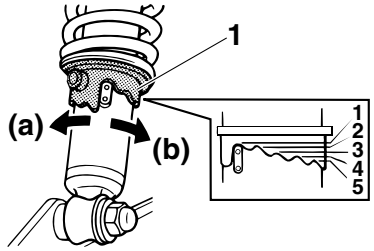
注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロードの調整は以下のように行います。
プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。

要 点

アジャスターの切り欠きを、リヤクッションのインジケーターに合わせます。



1. アジャスター

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
1 段
標準：
1 段
最大（ハード）：
5 段

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要 点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10242

⚠警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU49221

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム（サイドスタンドスイッチ、クラッチスイッチおよびニュートラルスイッチを含む）には次の機能があります。

- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドが上げてあるが、クラッチレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、クラッチレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドを下げるとエンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11541

⚠ 警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

エンジンが停止した状態で：
1.サイドスタンドを下ろします。
2.エンジンストップスイッチをRUNにします。
3.メインスイッチをONにします。
4.ギヤをニュートラルに入れます。
5.キックペダルを踏み込みます。
エンジンは始動しましたか？

はい　　いいえ → ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：
6.サイドスタンドを上げます。
7.クラッチレバーを握ります。
8.ギヤを入れます。
9.サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？

はい　　いいえ → サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した後：
10.サイドスタンドを上げます。
11.クラッチレバーを握ります。
12.キックペダルを踏み込みます。
エンジンは始動しましたか？

はい　　いいえ → クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。**走行可能です。**

要　点
この点検は、メインスタンドを立てて行ってください。

日常点検

JAU1559B

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要　点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30063

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

⚠警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU31471

ならし運転

JAU27665

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を4000 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU49154

エンジン始動

JWA12493

⚠ 警 告

- **エンジンを始動するときには、3-12 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **ギヤをニュートラルにしないと、キックしたときに飛び出しや転倒することがあります。必ずニュートラルを確認してエンジンを始動してください。**
- **サイドスタンドをおろした状態で走行しないでください。**

要　点

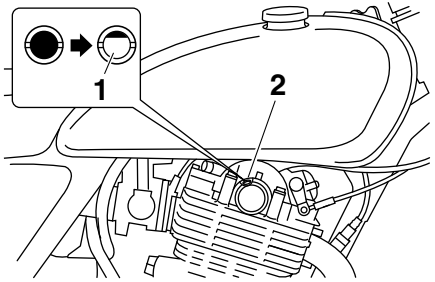
バッテリーがあがっていたり取り外されている状態では、エンジンは始動できません。

1. メインスタンドを立てます。
2. メインスイッチを ON にし、エンジンストップスイッチを “⏀” にセットします。
3. ギヤをニュートラルの位置にシフトします。

要　点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

4. スロットルを完全に閉じます。
5. デコンプレバーを握り、キックインジケーターのマークが見えるまでキックペダルをゆっくり踏みます。



1. マーク
2. キックインジケーター

6. デコンプレバーを放し、力強くキックしてエンジンを始動させます。

JCA16661

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響に**

もなりますので、やめてください。

- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

JAU49163

4～5回キックしても始動しないとき

以下の手順で始動してください。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. デコンプレバーを握ったまま、スロットルを全開にして 4～5 回キックします。
3. スロットルを完全に閉じます。
4. デコンプレバーを握り続けたまま、キックインジケーターのマークが見えるまでキックペダルをゆっくり踏 みます。
5. メインスイッチを ON にします。
6. デコンプレバーを放し、力強くキックしてエンジンを始動させます。

JAU49201

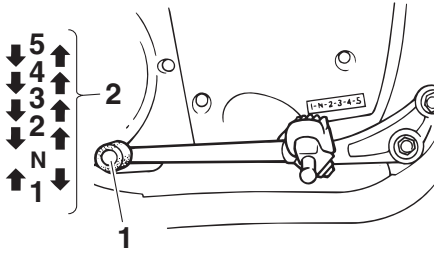
要　点

この車は、以下の機構を装備しています。

- メインスイッチがONのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、そのままではエンジンを再始動することができません。このような状態になった場合はメインスイッチを一旦 OFF にして、再度 ON にするリセット操作をしてください。
- 車両が停止した状態で20分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、そのまま再始動が可能です。

JAU27515

ギヤチェンジのしかた



1. シフトペダル
2. ギヤの位置

この車はリターン式の 5 段変速です。
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

要　点

ニュートラル（**N**）にシフトするには、繰り返しシフトダウンして 1 速ギヤの位置になったところで、わずかにシフトアップします。

JCA12032

注 意

● シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。

● クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

JAU64120

ギヤチェンジの速度

各ギヤでの走行速度およびシフトダウンのギヤチェンジは、以下の速度を目安として行ってください。

走行速度
1 速 : 0 km/h–45 km/h
2 速 : 15 km/h–65 km/h
3 速 : 20 km/h–90 km/h
4 速 : 25 km/h–115 km/h
5 速 : 30 km/h–135 km/h

シフトダウン速度
5 速 → 4 速 : 90 km/h 以下
4 速 → 3 速 : 70 km/h 以下
3 速 → 2 速 : 55 km/h 以下
2 速 → 1 速 : 35 km/h 以下

JWA20720

⚠ 警 告

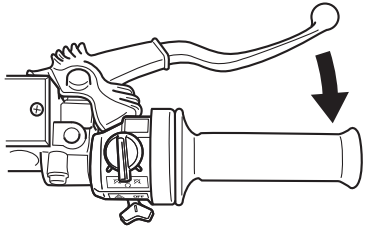
法定速度を守って走行してください。

JAU33176

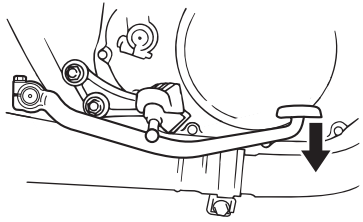
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

＜フロントブレーキ＞



＜リヤブレーキ＞



JWA11573

⚠ 警 告

● 急なブレーキ操作は避けてください（特に

どちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

JCA26500

注 意

- 上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップならびにクラッチの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯したりするおそれがあります。
- 不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

⚠警 告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

⚠警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

⚠警 告

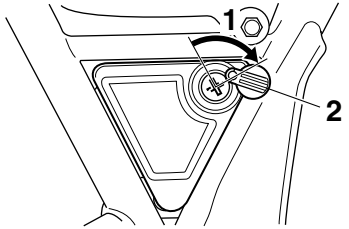
走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要　点

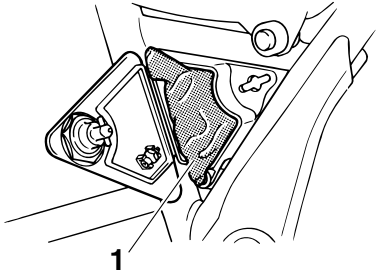
- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAU85230

サービスツール



1. 解除
2. ロックカバー



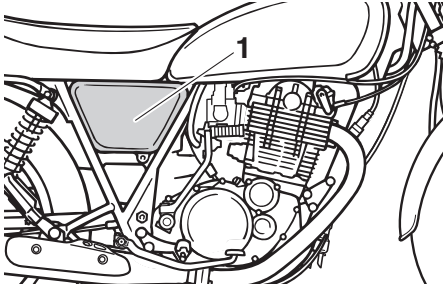
1. サービスツール

サービスツールは図で示す場所にあります。

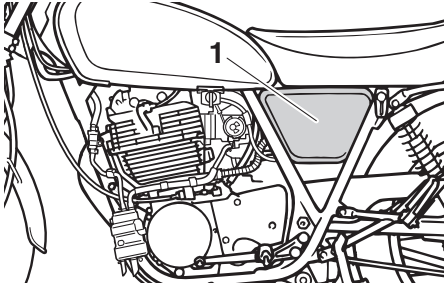
JAU18752

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



1. カバー A



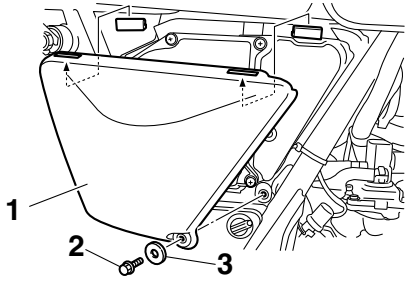
1. カバー B

JAU85430

カバー A

<u>カバーの取り外しかた</u>

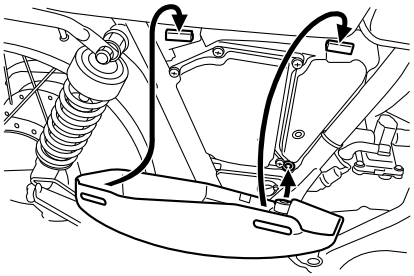
ボルトを外し、図のようにカバーを取り外します。



1. カバー A
2. ボルト
3. ワッシャー

<u>カバーの取り付けかた</u>

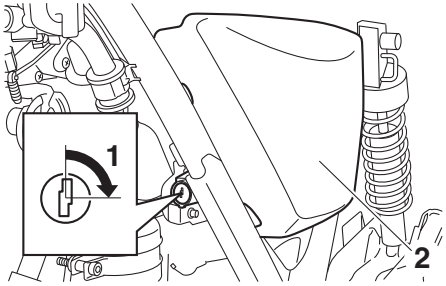
カバーを元の位置に取り付け、ボルトを締め付けます。



カバーB

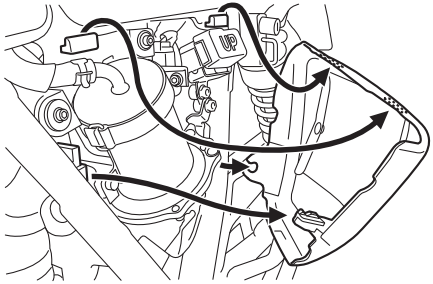
カバーの取り外しかた

1. キーシリンダーにキーを差し込み、時計方向に1/4回転回してロックを解除します。



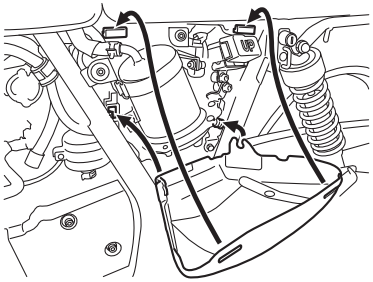
1. 解除
2. カバーB

2. 図のようにカバーを取り外します。



カバーの取り付けかた

1. カバーを元の位置に取り付けます。



2. キーを反時計方向に回してロックします。

JAU85440

エンジンオイル

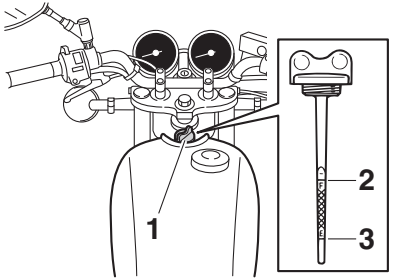
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めてメインスタンドを立てます。(車を垂直にする) オイルレベルが安定するまで、数分間待ちます。
3. オイルレベルゲージを外し、レベルゲージ部をきれいにふきます。
4. オイル注入口にオイルレベルゲージを(ねじ込まないで) 差し込み、もう一度取り出してオイル量を点検します。



1. オイルレベルゲージ
2. フルレベル
3. ロアレベル

要　点

オイル量がフルレベルとロアレベルの間にあれば適切です。

5. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。(推奨エンジンオイルについては、7-3 ページ参照)
6. ガスケットに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。
7. オイルレベルゲージをオイル注入口に差し込み、確実に締めます。

JAU30545

エンジンオイルの交換時期

初 回：
　1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
　3000 km 走行ごと、または 1 年ごと
エンジンオイル量：
　オイル交換時：
　　2.00 L
　オイルフィルター取り外し時：
　　2.10 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターエレメントの交換時期

初 回：
　1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
　9000 km 走行ごと

JWA11861

⚠警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12102

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。またヤマハ純正オイルヤマルーブ FX をこの車に使用しないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU44194

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531

⚠ 警 告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU49171

エアクリーナーエレメントの交換

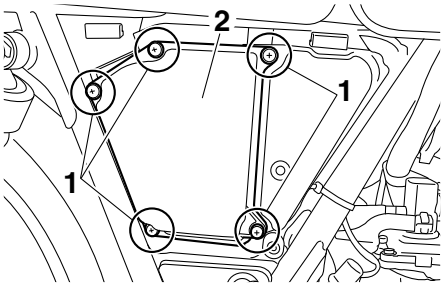
エアクリーナーエレメントは定期的に点検し、汚れや破れなどがあるときは交換してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換してください。

JCA11951

注 意

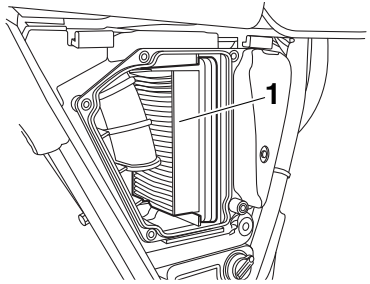
- **エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。**
- **エアクリーナーエレメントを取り付けないままエンジンを始動しないでください。エンジンの故障の原因となります。**

1. カバー A を取り外します。(6-2 ページ参照)
2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



1. スクリュー
2. エアクリーナーケースカバー

3. エアクリーナーエレメントを取り外します。

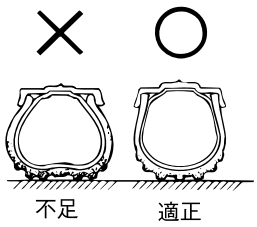


1. エアクリーナーエレメント

4. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。
5. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
6. カバー A を取り付けます。

JAU70860

タイヤ
空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤの冷えているときに測定してください。

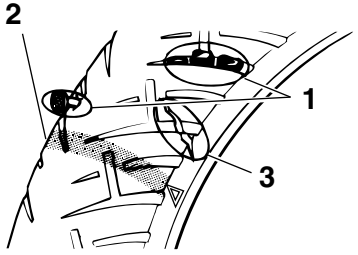
タイヤ空気圧 （冷間時）：
1 名乗車：
前輪：
175 kPa (1.75 kgf/cm^2)
後輪：
200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
2 名乗車：
前輪：
200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
後輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)

要　点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28583

タイヤの亀裂、損傷の点検
タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗
タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28775

タイヤの溝の深さ
タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪2.0mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠警 告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：
前輪：
90/100-18M/C 54S
後輪：
110/90-18M/C 61S
指定タイヤ：
前輪：
BRIDGESTONE/BT45F
後輪：
BRIDGESTONE/BT45R

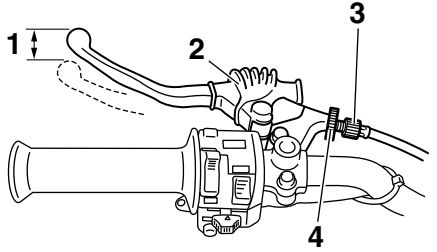
JAU28972

クラッチ

クラッチレバーの遊び

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び
5.0–10.0 mm



1. 遊び
2. ゴムカバー
3. アジャスター
4. ロックナット

点検の結果調整が必要な場合は、ゴムカバーをずらし、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。

JWA11841

⚠警 告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA12092

注 意

- **調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。**
- **1か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。**

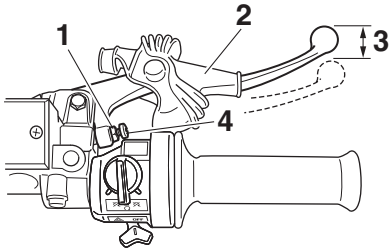
JAU48822

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

＜フロントブレーキ＞

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。



1. ロックナット
2. カバー
3. 遊び
4. アジャスター

ブレーキレバーの遊び
5.0–8.0 mm

JWA11751

⚠警 告

ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

点検の結果調整が必要な場合は、カバーをずらし、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。

JCA12071

注 意

調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。

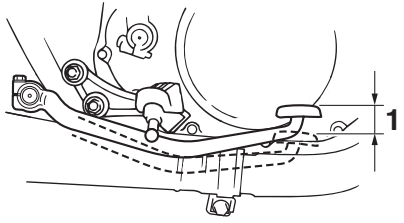
JWA11851

⚠警 告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりがないかを確認してください。

＜リヤブレーキ＞

ブレーキペダルを手で押し、抵抗を感じるまでの遊びが規定の範囲にあるかを点検します。

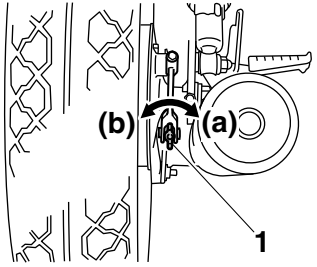


1. 遊び

ブレーキペダルの遊び
20.0–30.0 mm

点検の結果調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。

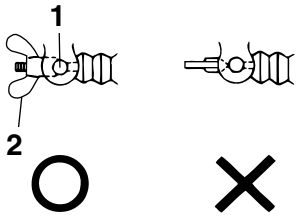
1. アジャスターを時計回り（a）に回すと、遊びが少なくなります。
2. アジャスターを反時計回り（b）に回すと、遊びが多くなります。



1. アジャスター

要　点

アジャスターは、必ずピンとかみ合わせてください。



1. ピン
2. アジャスター

JWA11851

⚠警 告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりがないかを確認してください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

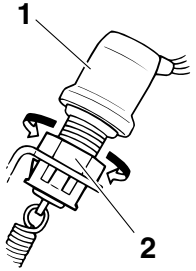
⚠警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU22275

ブレーキランプスイッチ

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。
リヤブレーキランプスイッチの調整は、スイッチを指で押さえ、アジャスターを回して行います。



1. リヤブレーキランプスイッチ
2. アジャスター

JCA12081

注 意

リヤブレーキランプスイッチを調整するときは、スイッチ本体を回さないでください。スイッチ本体を回すと、リード線を傷付けます。

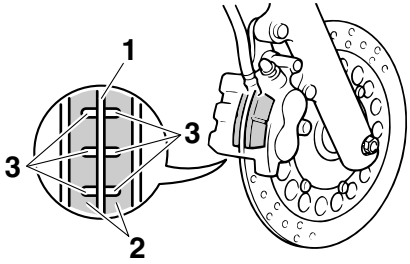
フロントブレーキをかけたときもブレーキランプが点灯するか点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU29671

ブレーキパッドの点検

<フロントブレーキ>

ブレーキパッドのインジケーター溝の深さで摩耗の状態を点検します。



1. ブレーキディスク
2. ブレーキパッド
3. インジケーター溝

インジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

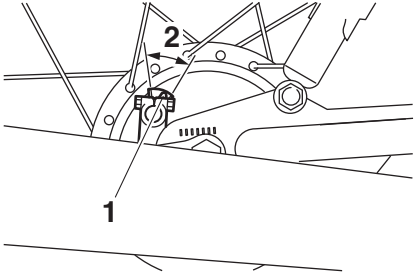
JAU29861

ブレーキシューの摩耗点検

<リヤブレーキ>

ブレーキシューの摩耗の状態を点検します。ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んだとき、インジケーターがシュープレートの使用範囲から外れるとブレーキシューの使用限度です。

ヤマハ販売店で交換・整備を受けてください。



1. インジケーター
2. 使用範囲

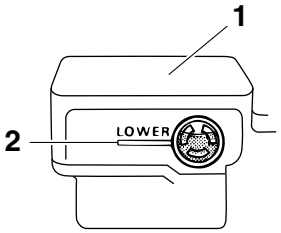
JWA11831

⚠警 告

ブレーキシューの交換時には、ブレーキシューのテンションスプリングも同時に交換してください。

JAU29982

ブレーキ液量の点検



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

⚠警 告

- **ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。**

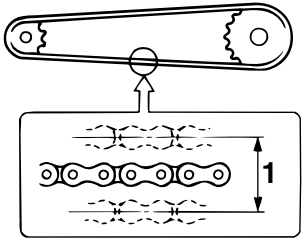
JAU22762

ドライブチェーン

JAU22799

ドライブチェーンの点検

1. ギヤをニュートラルにしてメインスタンドを立てます。
2. 前後スプロケット間のチェーン中央部を上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。



1. ドライブチェーンのたわみ量

ドライブチェーンたわみ量：
30.0–40.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。

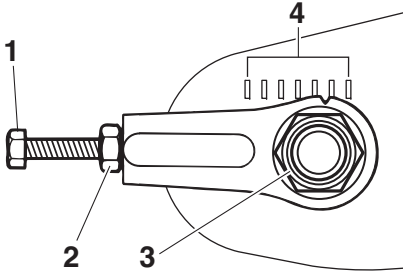
また、タイヤを手でゆっくり回しながら

チェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU30513

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロッキングナットをゆるめます。
2. ロックナットをゆるめてアジャスターで左右均等に締め込みます。



1. アジャスター
2. ロックナット
3. セルフロッキングナット
4. 刻み目盛り

要　点

刻み目盛りを左右同位置にします。

3. チェーンのたわみ量が規定値になるように調整します。
4. 調整後、セルフロッキングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
セルフロッキングナット：
130 N・m (13 kgf・m)

5. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
16 N・m (1.6 kgf・m)

6. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JWA12012

⚠ 警 告

ドライブチェーンたわみ量の調整後は、必ずブレーキ調整を行ってください。

JAU23026

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注 意

この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。

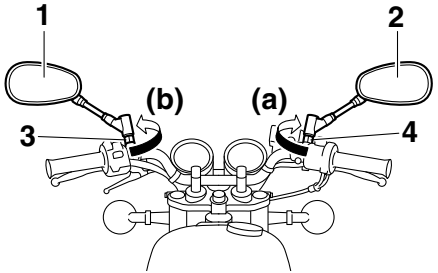
- **スチーム洗浄はしないでください。**
- **シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。**

JAU43562

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り（a）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り（b）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

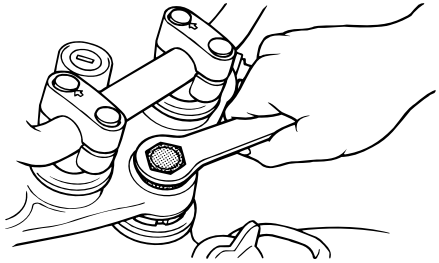
車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28762

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠ 警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

JCA12142

注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12V です。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。**

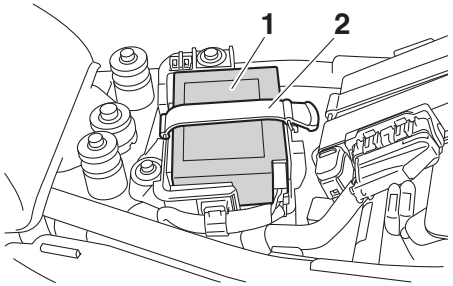
JAU49182

バッテリーの取り外し

1. メインスイッチを OFF にします。
2. シートを取り外します。（3-9 ページ参

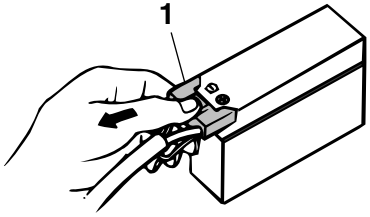
照）

3. バッテリーバンドを外し、バッテリーを引き出します。



1. バッテリー
2. バッテリーバンド

4. コネクターを抜き、バッテリーを取り外します。



1. コネクター

要　点

バッテリーからコネクターを抜くときは、コネクターの中央を押さえてください。

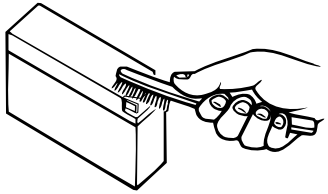
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

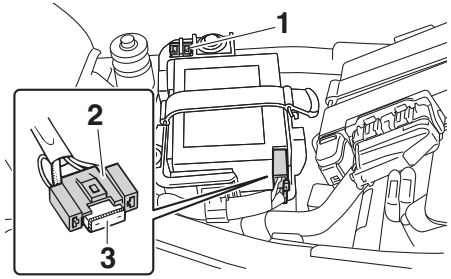
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



JAU49193

ヒューズ交換

メインヒューズはバッテリーリード線のコネクターにセットされています。(6-15 ページ参照)

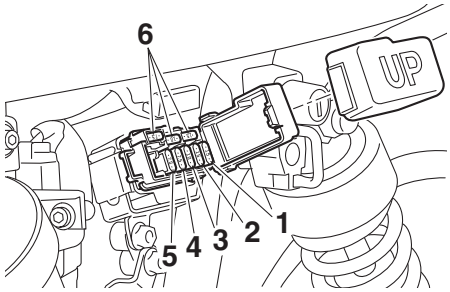


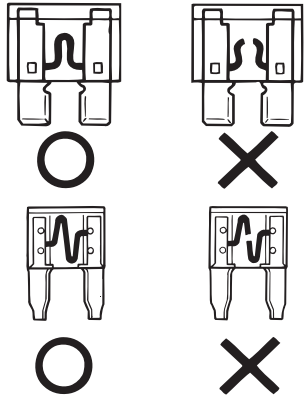
1. スペアメインヒューズ
2. コネクター
3. メインヒューズ

系統別ヒューズはカバーBを外したところのヒューズボックス内にセットされています。(6-2 ページ参照)

ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。





1. ヘッドライトヒューズ
2. シグナルヒューズ
3. イグニッションヒューズ
4. バックアップヒューズ
5. フューエルインジェクションヒューズ
6. スペアヒューズ

メインヒューズ：
30.0 A
シグナルヒューズ：
15.0 A
ヘッドライトヒューズ：
15.0 A
イグニッションヒューズ：
10.0 A
バックアップヒューズ：
7.5 A
フューエルインジェクションヒューズ：
7.5 A

JCA11961

注 意

電気系統への損傷や発火を防ぐために、規定アンペア数以上のヒューズは使用しないでください。

3. メインスイッチを ON にし、装置が正しく作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JCA12862

注 意

- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

JAU29447

灯火装置および方向指示灯の点検

1. 車両の電源をオンにします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-16ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（8-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

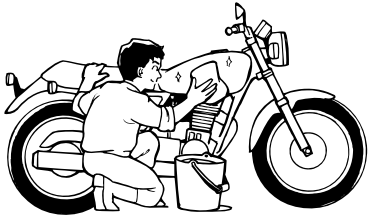
- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

JAU27795

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

⚠警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12214

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。**

- **ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。**
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

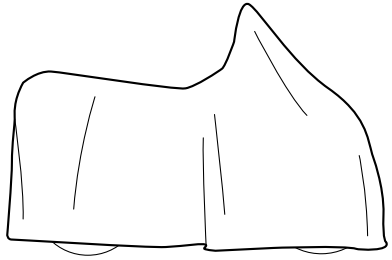
要　点

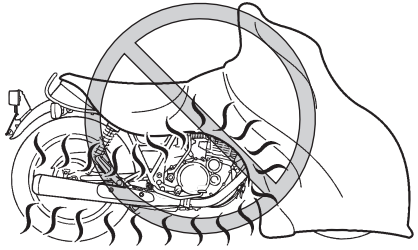
- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。
なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。





JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28115

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。
高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。
低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。
大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。
高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

ヤマルーブスポーツ

走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。
価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。
ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス

経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。
工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。
コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、下のURLを入力してホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

https://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　検索

製品仕様

寸法 :
全長 :
2085 mm
全幅 :
750 mm
全高 :
1100 mm
シート高 :
790 mm
軸間距離 :
1410 mm
最低地上高 :
130 mm

重量 :
車両重量 :
175 kg
乗車定員 :
2 名

性能 :
最小回転半径 :
2.4 m

エンジン :
行程 :
4 ストローク
冷却方式 :
空冷
動弁機構 :
SOHC
気筒数 :
単気筒
総排気量 :
399 cm^3

フロントブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ :
ブレーキ形式 :
機械式リーディングトレーリングドラムブレーキ

フロントタイヤ :
種類 :
チューブ有り
サイズ :
90/100-18M/C 54S
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/BT45F

リヤタイヤ :
種類 :
チューブ有り
サイズ :
110/90-18M/C 61S
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/BT45R

動力伝達機構 :
1 速 :
2.357 (33/14)
2 速 :
1.555 (28/18)
3 速 :
1.190 (25/21)
4 速 :
0.916 (22/24)
5 速 :
0.777 (21/27)

エレクトリカル :
電圧 :
12V

ヘッドライト :
ヘッドライト球 :
ハロゲンバルブ

バルブワット数 :
ヘッドライト :
H4, 60.0 W/55.0 W
ブレーキ / テールランプ :
21.0 W/5.0 W
方向指示灯（前）:
21.0 W

方向指示灯（後）:
21.0 W

エンジンオイル:

推奨オイル:
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

エンジンオイル量:

オイル交換時:
2.00 L
オイルフィルター取り外し時:
2.10 L

バッテリー:

バッテリー型式:
GT4B-5
バッテリー容量:
12 V, 2.5 Ah (10 HR)

スパークプラグ:

メーカー / 型式:
NGK/BPR6ES
プラグギャップ:
0.7–0.8 mm

ユーザー情報

JAU36644

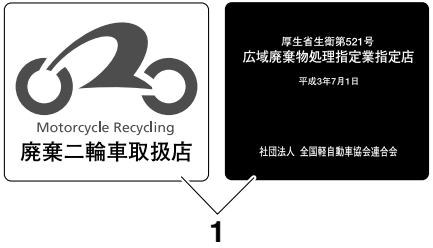
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

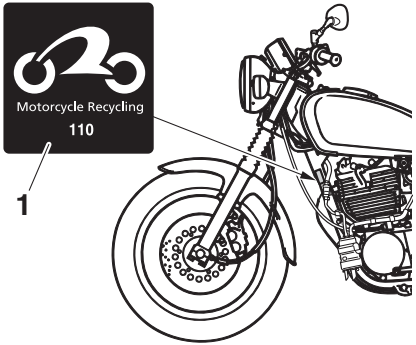
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム
https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/

公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28393

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル　部品番号：
QQS-CLT-000-B9F

JAU28457

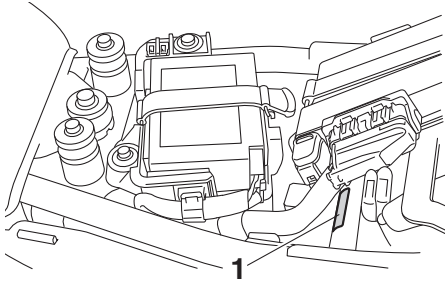
車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、シート下のフレームに貼り付けてあります。



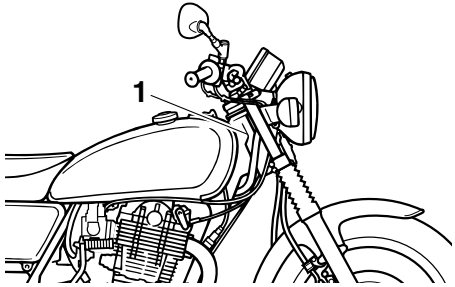
1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は
SR400
モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号



1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

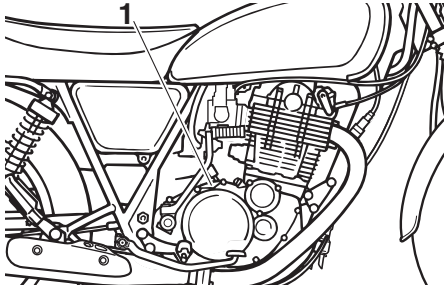
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

9

ユーザー情報

JAU50511

原動機番号

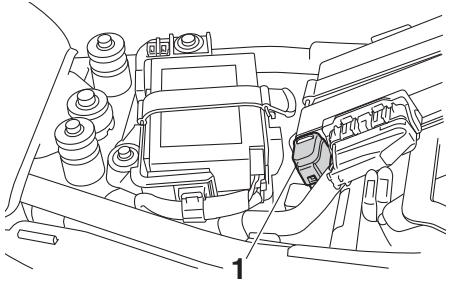


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU73861

故障診断コネクター



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

JAU74841

車両情報の記録に関して

この車両に搭載されているコンピューターは、故障診断や調査、開発を目的として、車両情報を記録しています。
記録された情報は、車両の点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、ヤマハに送信されます。

モデルによって異なりますが、記録される主な情報は次のとおりになります。
- 車両の状態やエンジンの使用状況
- 排気ガスに関する情報

記録された情報は、次の場合を除き第三者へ開示されることはありません。
- お客様の同意をいただいた場合
- 法的に求められた場合
- ヤマハが裁判で使用する場合
- 車両や個人を特定することなく、ヤマハが統計調査などに使用する場合

あ
あなた自身と同乗者のために 1-1
アフターケア用品について 7-3
アンダーブラケットの
取り付け状態の点検
（ステアリングステム）..... 6-15

い
イグニッションサーキット
カットオフシステム..... 3-12
イモビライザーシステム..... 3-2

う
運行において異常が認められた
箇所の点検 6-18

え
エアクリーナーエレメントの交換 6-6
エンジンオイル 6-3
エンジン始動 5-1
エンジンストップスイッチ 3-6
エンジンのかかり具合、
異音の点検 6-5

か
カバーの取り外し、取り付け 6-2
環境・住民の方との調和のために 1-6

き
キーの取り扱い 3-1
キックしても始動しないとき 5-2
キックスターター 3-9
ギヤチェンジのしかた..... 5-3

く
クラッチ..... 6-8

け
警告灯と表示灯 3-3
原動機番号..... 9-3

こ
故障診断コネクター 9-3

さ
サービスツール 6-2
サービスマニュアル（別売）の
紹介 9-2
サイドスタンド..... 3-11

し
シート 3-9
車体各部の給油脂状態の点検..... 6-14
車台番号..... 9-2
車両情報..... 9-2
車両情報の記録に関して..... 9-3
書類入れ..... 3-10

す
スピードメーターユニット..... 3-4

せ
洗車 7-1

た
タイヤ 6-7
タコメーター..... 3-5

ち
駐車 5-4

て
低速、加速の状態の点検..... 6-5
デコンプレバー 3-9
点検整備の実施 6-1

と
灯火装置および方向指示灯の
点検 6-18
ドライブチェーン 6-12
ドライブチェーンの給油 6-13

な
ならし運転..... 5-1

に
日常点検箇所／点検内容 4-1
日常点検の実施..... 4-1
二輪車を廃棄する場合は？..... 9-1

ね
燃料 3-8

は
ハザードスイッチ 3-6
バックミラー..... 6-14
パッシングライトスイッチ..... 3-5
バッテリー..... 6-15
ハンドルスイッチ 3-5

ひ
ヒューズ交換..... 6-16

ふ
フューエルコック 3-8
フューエルタンクキャップ..... 3-7
ブレーキ 5-3
ブレーキ液量の点検 6-12
ブレーキシューの摩耗点検..... 6-12
ブレーキパッドの点検 6-11
ブレーキランプスイッチ 6-11
ブレーキレバーの遊び／
ブレーキペダルの遊び、および
ブレーキのきき具合の点検..... 6-9

へ
ヘッドライト上下切り替え
スイッチ..... 3-5
ヘルメットホルダー 3-10

索引

ほ

ホーンスイッチ.....3-6
方向指示器スイッチ.....3-6
保管のしかた 7-2
歩行者と他の車のために 1-5

め

メインスイッチ.....3-2

も

モデルラベル 9-2

り

リヤクッションの調整.....3-11

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

YAMAHA

QQS-CLT-101-B9F

PRINTED IN JAPAN
2023.05-1.2 ×1
(J)